

レイティングの効果・特徴

日本卓球レイティング推進協議会
林 勲

レイティングシステムは、多くの大会が開催されてその値が増減しないと真の価値がわかりません。また、同程度のレイティングを持っている人が多数いても意味がありません。つまり、「多くの大会が開催されて、多くの人が参加し、多くのレイティング値が存在する」ことが重要です。その結果、レイティングが真の卓球の実力を量る指標となります。

私は、レイティングシステムには、

- (1) 選手が自分の技術レベルを測定するもの
- (2) 大会開催者が新たな試合構成を作るもの
- (3) レイティングから生まれる副産物

の3つの効果があると思っています。

(1) については、レイティングが動き始めるには、年間に多くのレイティング関係の大会が開催され、多くの同じ選手が複数回、その大会に参加することが必要です。その結果、各自のレイティングが正確になり、各自の正しい実力が測定できます。そのためには、同じ選手と多く対戦する必要はないですが、少なくとも、各選手が年間に多くのレイティング関係の大会に参加する必要があります。

レイティングによって、自分と相手の実力が数値で見ることができます。極端な話では、日本の卓球競技に参加する全員がレイティングを持った場合、オリンピック選手と今日から卓球を始めた選手との実力差がレイティングで測定できます。なお、レイティングの目安はレイティングが100の差がある選手間同士では10回の内に1回程度勝つか負けるかと言った差を表すと言われています。試合では、レイティングを持った選手は、事前に相手の実力が推定できますから、試合の戦略を変えながら試合を行うようになります。つまり、レイティングが高い選手は負けない試合を心がけ、レイティングが低い選手はチャレンジ精神で試合に臨みます。また、試合前も、試合中も、試合後も、レイティング談議に花が咲きますから、選手同士の一体感が生まれます。さらに、レイティングを測定するためには過去の全試合の成績を記憶することになりますので、レイティングの推移によって、自分の技術がどのように変化しているかを数値やグラフで見ることができます。このように、レイティングを導入することによって、自分の実力を容易に客観的に把握することができます。

(2) については、原則は今までの大会構成と何ら変える必要はありません。いままでの大会形式で勝敗からレイティングを計算するだけです。ですので、様々な今までの大会を全てレイティングを算出する大会とすることも可能です。ただし、より積極的にレイティングを利用して大会を構成することも可能です。例えば、レイティングで各選手の実力が測定できますので、リーグ戦やト

ーナメント戦を組む際の選手の割り付けが容易になります。また、レイティングで技術の実力が測定できますので、男女別、年齢別、障害者別、ラージボール別の試合を構成する必要がありません。アメリカでは、性別や年齢別の試合もありますが、多くは、レイティングを用いて多くのレベル別ブロックを構成し、その内部でリーグ戦やトーナメント戦を行っています。例えば、レベル別ブロックを3つで構成する場合、レイティングが(A)2000以上、(B)1500～2000、(C)1000～1500などのように、実力差でブロックを構成し、その内部で予選リーグ戦と決勝トーナメント戦を行っています。ただし、各選手は、自分のレイティングより低いレベルブロックには参加できませんが、高いブロックには自由に参加できます。このレベル別ブロックと参加原則を用いて多くの大会を構成しています。

大会開催者側から言えば、レイティングをどのようにも利用できますので、レイティングの利点を用いて多くの種々の大会を構成することができます。すなわち、レイティングは実力を測定する手段であって、大会の構成を規制するものではないということです。むしろ、積極的にレイティングを利用して、新たな試合形式を開催できるようになると思います。

(3) については、余白がありませんので、箇条書きで表します。詳細は別途、説明いたします。

- ・ 参加者に会員番号を振りますので、会員の把握が完全にできます。
- ・ 各選手の過去の試合経過（日時、大会名、対戦相手、対戦成績）を完全に記憶できます。したがって、過去の試合経過を各選手に提示することができます。
- ・ レイティングの推移から、各選手の実力の推移を把握することができます。
- ・ 他の地域でのレイティング大会と連携し、同じレイティングで大会や試合を構成できます。

以上